

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
令和3年12月3日

石狩湾沿岸における今漁期（令和4年1～3月）の漁況は次のようになる見通しです。

- 漁期序盤（1月）：4年魚（2018年級）と5年魚（2017年級）の大型・高齢群が主体となり、来遊量は昨漁期より減少する見通しです。ただし、この時期の漁況は水温分布などに大きく影響されます。
 - 漁期中盤（2月）：5年魚～4年魚主体となり、来遊量は昨漁期より減少する見通しです。
 - 漁期終盤（3月）：3年魚主体となり、小型魚の来遊量は昨漁期を上回る見通しです。
- ※ ただし、直近2年では終盤でも高齢魚の漁獲が続く状態が続いています。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査では、尾叉長28～30cmを中心とした大型ニシンが多く、また尾叉長24cmを中心とした小型魚もある程度採集されました（下図）。年齢別にみると4年魚（2018年級；満3歳）が41%，3年魚（2019年級；満2歳）が27%，5年魚（2017年級；満4歳）が22%で、これらで全採集尾数の90%を占めました。

上述の調査結果が今漁期に来遊するニシンの年齢組成を反映していると仮定すると、今漁期の来遊の中心は3～5年魚（満2～4歳）と予想されます。これまでの漁獲実績に基づいた資源計算、及びトロール調査の結果から、各年齢の資源量を昨漁期と比べると、5年魚（満4歳）は昨漁期よりも豊度が低いことから「減少」と推定され、4年魚（満3歳）も現時点では昨漁期より豊度が低いと想定されていることから、「減少」と思われます。3年魚（満2歳）は、若齢のため資源解析に基づく予測が困難ですが、トロール調査での採集尾数は昨年度より「増加」しました。ちなみに、昨年度は6年魚（満5歳）が多く漁獲されましたが、今漁期の6年魚の豊度は昨漁期よりも「減少」と推定されています。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため、地域間で好・不漁感の違いが出てくる可能性はありますが、石狩湾沿岸では水温分布等に大きな異変がなければ、漁期序盤（1月）、及び中盤（2月）は5年魚と4年魚主体の漁となり、終盤（3月）は3年魚が来遊の主体となると見込まれます。また、漁期序盤～中盤の来遊は昨年度と比べると少なく、終盤の小型魚の来遊は昨年度より多くなる可能性があります。なお、直近2年では漁期終盤でも高齢魚の来遊がみられており、今漁期もこのような現象がみられるか注意深く観察する必要があります。

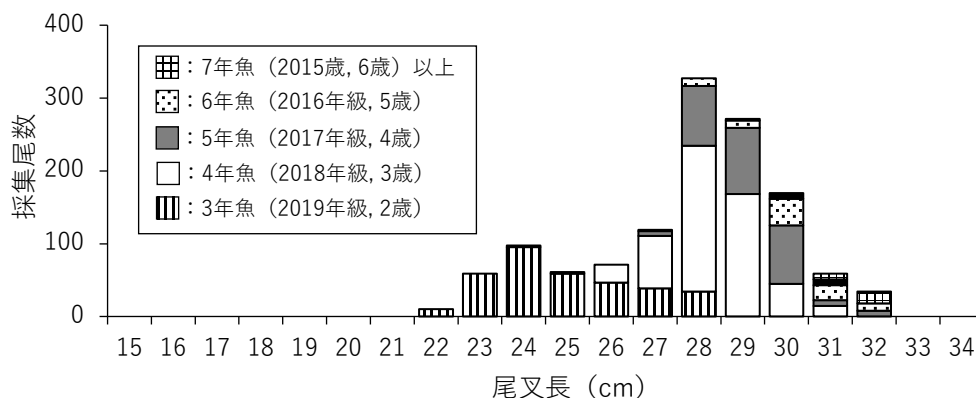


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成